

くすのき タイムズ

KUSUNOKI TIMES



特 | 集

スペシャルインタビュー

神戸大学医学部附属病院
准教授、診療科長

神戸大学医学部附属病院
助教、外来医長

神戸大学医学部附属病院
特定助教

乙井 一典 | 岡野 光真 | 官澤 洋平

総合内科として実践する

「全人的医療」

CONTENTS

特集『スペシャルインタビュー』… 2・3

TOPICS『Hello! おもてなしホスピタルジュニア』…4

健康手帳『QOLを高める乳房再建術』…5

健康レシピ『かぶ餅』…6

お知らせ『直腸がん“切らない治療”という新しい選択肢を』…7

当院のキャッチコピーが決定しましたのでご報告いたします。

新しいキャッチコピーは「**神戸から世界へ。命を支える知と技術。**」です。
今後の広報活動に活用してまいりますので、ご期待ください。



神戸大学医学部附属病院
Kobe University Hospital

総合内科として実践する 「全人的医療」



神戸大学医学部附属病院
特定助教 官澤 洋平先生

神戸大学医学部附属病院
准教授、診療科長 乙井 一典先生

神戸大学医学部附属病院
助教、外来医長 岡野 光真先生

私たちに診ない病気はない

まずは、総合内科についてお聞かせください。

乙井:我々総合内科は、大学病院という非常に細分化された専門家集団の中にありながら、特定の臓器に偏らない診療を行い、患者さんを中心とした『全人的医療』の実践を目指す診療科です。「私たちに診ない病気はない」をモットーにしており、患者さんが抱えるあらゆる悩みに寄り添いながら、原因の究明と解決に向けて、多分野にまたがり横断的に診療しています。

官澤:我々の外来を受診されるのは、症状や初期診療の段階にあってどの専門分野に属するかを判断しにくい患者さんや、症状・症候のみで確定診断に至っていない患者さんが中心です。長い間辛い症状に苦しんでおられる患者さんも多いので、単なる検査・診断で終わらせるのではなく、患者さんの訴えをしっかりと受け止めることを基本としています。

診療はどのように進んでいくのですか？

官澤:まず、患者さんの話を丁寧に伺い、現在の症状に加えて過去の病歴や服薬状況などの医学的背景、さらに家族構成や職業といった社会的背景を把握します。その上で、必要な

検査や治療があれば各専門科へ紹介し、総合内科が中心となって診療を進めます。精神的・社会的な問題が関わっている場合には、さらに精神科神経科の医師やソーシャルワーカーとも連携し、患者さんを多角的にサポートすることもあります。

検査の結果、原因がわからないというケースもあるのでしょうか？

乙井:全てをスッキリ解決できれば理想ですが、どうしても原因がわからないケースはあります。しかし、我々は大学病院の総合内科として寄り添わなくてはなりません。例えば大学病院ならではの先進的な検査を重ね、隠れている病気の可能性をひとつひとつ排除し、患者さんの不安を軽減することも重要な役割です。

岡野:大学病院を受診される患者さんには「ここならなんとかしてくれるだろう」という期待があると思うんですね。ですから「わからないので他に行ってください」「うちでは診られません」という対応でお帰りいただくわけにはいかないのです。

官澤:総合内科は医学的に寄り添うだけでは不十分で、患者さんの心の問題や社会の複雑さにも目を向ける必要があります。原因がわからなくても、患者さんが感じるつらさに向き合い、その苦しさを少しでも和らげることが私たちのミッションです。

特集 SPECIAL Interview

神戸大学医学部附属病院
准教授、診療科長 乙井 一典先生

1999年神戸大学医学部を卒業。2005年より国立循環器病センター研究所・脈管生理部研究員として研究に従事。2008年に神戸大学大学院博士課程を終了。神戸労災病院にて循環器科医長、総合内科副部長を歴任し、2016年から神戸大学医学部附属病院総合内科にて助教を務める。2022年12月より現職。全人的医療と教育に尽力している。

神戸大学医学部附属病院
助教、外来医長 岡野 光真先生

2011年神戸大学医学部を卒業後、神鋼記念病院、医学研究所北野病院で臨床経験を重ねる。2016年より神戸大学循環器内科で血栓症の基礎研究に従事。2020年に神戸大学大学院博士課程を修了し、神戸大学医学部附属病院総合内科に出向。2021年4月より現職。循環器に関する知識を活かして静脈血栓症外来も担当し、下肢の腫れや痛みに悩む患者にも寄り添う。

神戸大学医学部附属病院
特定助教 官澤 洋平先生

2011年東北大学医学部卒業後、神戸市立医療センター中央市民病院で研鑽を積む。2016年に明石医療センター総合内科へ入職し、2025年4月より現職。日本プライマリ・ケア連合学会、日本病院総合診療医学会、日本内科学会、米国内科学会日本支部、日本専門医機構などで委員・副代表・委員長を歴任。若手医師育成にも情熱を注ぎ、各学会の若手部会を牽引しながら、次世代の総合診療を担う医師の育成に尽力している。



さまざまな得意分野を持った
医師が集まっているそうですね。

乙井:例えば私は循環器を専門としてきましたし、岡野先生もそうです。ほかにも糖尿病や呼吸器など、さまざまな専門性を持つ医師がチームとなって診療にあたっています。キャリアが異なる医師が集まることで、多角的な視点から患者さんを診ることができ、エキスパートの視点が入ることで新たな可能性や気づきも生まれます。

岡野:循環器を専門としてきた自分が総合内科に来たきっかけは、乙井先生が開設された静脈血栓症外来なんです。私は基礎研究として静脈血栓症の研究をしていましたし、高齢者が増えていく時代の医療ニーズに応えられるようレベルアップしたかった。これまで積み上げてきた専門性を活かしつつ「全人的な医療」を提供するのが今の目標。静脈血栓症外来でも、日々奮闘しています。

官澤:私のように総合内科を専攻してきた医師だけでなく、キャリアの異なる医師がいることが総合内科のなよりの強みです。岡野先生とは同期ですが、キャリアは全く違う。だからこそ互いに刺激を与え合える、非常に良いチームになっていると思います。

救急の受け入れでも活躍されているんですね。

官澤:救急では、内科の救急チームとして救命救急センターの一員として対応しています。搬送時は原因がはっきりしないケースが多いため、まず我々が窓口となり、必要に応じてさまざまな診療科と連携します。患者さんの状態を迅速に把握し、どの診療

科が中心となって治療を進めるべきか判断する“ハブ”の役割を担うことが多いですね。総合内科としての視点を活かして全体像を捉え、最適な治療につなぐことが我々に求められていることです。

診療科が持つ多様性を活かし、人生のサポートを
今後の展望についてはいかがですか？

乙井:今後はさらに総合内科に興味を持つメンバーが増えたらと思っています。色々なキャリアを持つ医師が集まって、「すべてを診る」スタンスで患者さんのためになる診療を実現していきたい、患者さんの人生の一助になっていければ嬉しいです。

最後に、地域の皆様にメッセージをお願いいたします。

岡野:日々の診療の中で、患者さんのお困りごとに向き合っても、どうしても解決の糸口が見えない場面はあると思います。そんな時こそ、ぜひ気軽に我々へご相談ください、ですね。

官澤:また、総合内科は多様性のある診療科ですから、それぞれのキャリアや個性がそのまま大きな武器になります。「全人的医療の実践」に興味がある先生がいらっしゃれば、ぜひ我々とともに患者さんへ向き合っていただけたら嬉しいです。

乙井:総合内科の診療は、決して我々だけで完結するものではなく、院内外を問わず、多くの医療者やスタッフに支えられています。まず心から感謝申し上げます。これからも謙虚に、そして誠実に診療に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。



Hello! おもてなしホスピタルジュニア ～小児病棟から万博の来場者をおもてなし～

大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」に基づき、誰一人取り残さない共生社会の実現を目指す取り組みとして、「Hello! おもてなしホスピタルジュニア」が企画されました。

このプロジェクトは、小児医療センター、同志社大学、追手門学院大学、日本ストリートダンス協会が9か月にわたる計画を経て実現したものです。病院で治療中の子どもたちがアバターやぬいぐるみロボットを使って万博に遠隔参加し、世界中から集まった来場者をもてなしました。



「病院から万博会場へ」

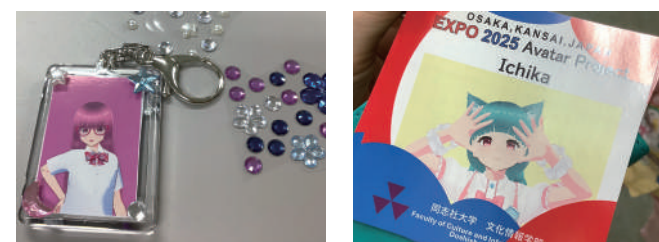
8月22日、病院に入院中の子どもたち（ホスピタルジュニア）の声が万博会場に届きました。

「こんにちは!」という声とともに、ぬいぐるみロボットが“べこり”とお辞儀。

「どこから来ましたか?」という声に合わせて、アバターが来場者をご案内。

病院から操作するアバターは大型モニターを通じて挨拶し、日本文化を紹介しながら英語でもてなしました。さらに、ホスピタルジュニア自身がデザインしたアバターグッズをプレゼントしました。これらのグッズは、万博後も海を渡り世界へ広がっていくことでしょう。

イクラおにぎりや動物など、ホスピタルジュニアの分身であるぬいぐるみロボットも活躍。遠隔操作で見せる仕草や子どもたちの声に、多くの来場者が足を止め、会話を楽しみました。ロボットたちは写真撮影にも愛らしい動きで応えました。



ホスピタルジュニアが万博会場へ!

10月4日、退院したホスピタルジュニアが万博会場のステージに登場しました。この日は、国連バビリオンのナショナルデーに合わせ、「大阪ヘルスケアバビリオン」リボーンステージで外国人ゲストと折り紙や紙相撲を楽しむ公式プログラムとして実施されました。

高知県との共演によるアバターの「よさこい踊り」がスクリーンに映し出され、大阪府警との共演では、ホスピタルジュニアが警察官の制服を着用し、「1日万博おまわりさん」に任命され、「Call one one zero」と呼びかけました。



病院にしながら万博という大きなイベントに貢献できたのは、神戸大学医学部附属病院と企業、大学、研究機関の連携によるものです。入院中の子どもたちにとって、前向きな思い出づくりとなり、アバターやロボットの社会実装への期待も高まりました。



文責:看護師長 浅田つかさ
医療保育専門士 岡本由美
保育士 田中凧

QOLを高める乳房再建術

日本では女性が罹患するがんの内、最も多いのが乳がんと言われています。乳がんの治療には、外科的治療、化学療法、放射線治療など病状にあわせてさまざまな治療法がありますが、私たち形成外科医と一緒に治療にあたらせていただくのは主に乳房再建術になります。

乳房再建術は大きく自家組織による再建術と人工物による再建術とに分けられます。また、乳がん切除と同時にする場合（一次再建）と、後日改めて再建を行う場合（二次再建）とに分けられます。それぞれに利点・欠点があり、患者さん・乳腺外科医・形成外科医とで綿密に協議を重ねながら再建方法を決定していきます。

人工物再建では、多くの場合はまず、組織（皮膚など）を広げるためにティッシュエキスパンダー（以下TE）というものを挿入します。その後、外来で少しずつTEに生理食塩水を注入しながら新しく乳房になる部分を拡張します。拡張し終えたらしばらくの間おいたのち、シリコンでできた人工乳房（以下SBI）に入れ替えます。この時、次に述べる自家組織再建に切り替えられる患者さんもおられます。手術自体は自家組織再建に比べると大幅に体の負担は減りますが、SBIは経年劣化のため、10年程度に一度は入れ替えが必要とされています。また感染のリスクやSBI周囲のカプセルによる変形なども挙げられます。

自家組織再建では、主に腹部から皮膚と皮下脂肪（場合によ

ては一部の筋肉も）を血管をつけて採取し、これを胸や脇の下の血管とつなぎ合わせる方法や背中中の筋肉と皮膚・皮下脂肪とを体から切り離さずに用いる方法などがあります。これらの手術方法では、乳房以外の体にメスを入れる必要があり、また手術時間も長くなるため、手術の時の体への負担は人工物再建に比べて大きくなる傾向にありますが、ご自身の体の組織で再建しますので、柔らかく温かいなど、長期的には利点があります。

乳がん切除と同時にする場合、術後しばらくは痛みやひきつれなど、大変ですが、手術を1回、減らすことができる利点があります。また、喪失感を軽減できるという患者さんからの声も聞きます。一方で、ただでさえ乳がんの手術で考えなければいけないことが沢山ある中で乳房再建のことまで考えると、心の負担も大きくなりかねません。そのような場合は後日改めて再建を計画することで、落ち着いてご自身に最適な再建方法を考えることができます。術後に放射線治療を受けておられると、人工物での再建は難しくなりますが、自家組織での再建はご自身の体力が許す限り10年先でも行うことができます。

形成外科は乳房再建だけでなく、さまざまなアピランスの問題においても、サポートしてまいります。患者さんの笑顔は私たち形成外科医の大きな励みになります。

文責:形成外科・美容外科 榎原俊介





HEALTHY RECIPE

健康レシピ

冬のおもてなし料理編

冬野菜たっぷり料理

かぶ餅

新しい年が明けて、寒さが本格的になってきましたね。
煮物や漬物にすることが多い「かぶ(蕪)」を、パリッと焼き上げた「かぶ餅」をご紹介します。
半透明の餅にかぶの葉の緑が映え、もちもちとした食感にかぶの葉のシャキシャキ感が特徴です。
1人前の量で野菜を約200g摂ることができます。冬のおもてなし料理にぜひお試しください。



※写真の盛り付けは2人分です。

材料(2人分／6枚)

(かぶ餅)	
かぶの根	440g(M2個)
かぶの葉・茎	50g
片栗粉	36g
塩	1.5g
サラダ油	8g

(タレ)	
酢	9g(小さじ2)
減塩醤油	9g(小さじ1.5)
ごま油	1.5g(小さじ0.5)
いりごま	1.0g

作り方

- ①かぶの皮をむき、すりおろしてキッチンペーパーや布でくみ、よく絞る。
- ②かぶの葉・茎を1cmの小口切りにする。
- ③すりおろしたかぶ、かぶの葉、塩、片栗粉を入れて混ぜ合わせる。
- ④6等分に分け、形を整えて薄めに伸ばす。
- ⑤フライパンにサラダ油を入れて加熱し、④で成形したかぶを入れてしっかりと両面焼き上げる。
- ⑥タレの材料を全部混ぜ合わせる。

計量の単位:大さじ1=15mL、小さじ1=5mL、1カップ=200mL

栄養量(1人分)

エネルギー	155kcal
たんぱく質	2.0g
脂質	5.1g
炭水化物	22.9g
糖質	19.3g
食物繊維	3.6g
食塩相当量	1.1g



- 手順①のすりおろしは、フードプロセッサーやブレンダーを使うと手軽にできます。
- 手順②で、かぶの茎を多めに入れるとシャキシャキとした食感がより一層楽しめます。
- タレは減塩醤油を使用することで塩分を抑えられます。タレはポン酢でも美味しくいただけます。塩分50%カットの減塩醤油小さじ1杯(6g)で塩分0.5g程度、ポン酢も商品により異なりますが同程度の塩分量となります。

メニュー考案:エームサービス(株) 矢野慎太郎、編集:栄養管理部 坂本絢子

食事・栄養についてのご相談は、月～金曜日に予約制で行っています。医師、看護師、管理栄養士にお申し出ください。

●栄養相談に関する問い合わせ先
栄養管理部 ☎078-382-6820(直通)
 受付時間 平日9:30～17:00



NOTIFICATION

お知らせ

直腸がんに“切らない治療”という新しい選択肢を

神戸大学病院 食道胃腸外科が参加する最新臨床試験「ENSEMBLE試験」

近年、がん治療は「根治を目指す」だけでなく、「生活の質(QOL)を守る」ことも重要視されるようになっていきます。特に直腸がんでは、手術により排便・排尿・性功能などが影響を受けることが少なくありません。こうした背景から、「手術を行わずに根治を目指す」新しい治療戦略が世界的に注目されています。

神戸大学病院 食道胃腸外科では、この“切らない治療”の可能性を検証する国際共同臨床試験「ENSEMBLE試験」に参加しています。

世界の治療開発に追いつく。日本でのTNTによる臓器温存の標準化



ENSEMBLE



- TNT:短期RT+2剤併用 vs 短期RT+3剤併用
- MRIのコンサル委員会を併用
- 多施設共同ランダム化第3相試験

本試験では、化学放射線療法を受けた直腸がん患者さんのうち、腫瘍が完全に消失した(臨床的CRと判断される)症例に対し、**追加手術を行わず慎重に経過を観察**するという新たな方針の有効性を検証します。つまり、「治療効果が十分であれば手術を省略できるか」を科学的に評価する試みです。

兵庫県内では神戸大学が唯一の参加施設として登録されており、当科では腫瘍・血液内科・放射線腫瘍科と緊密に連携しながら、多角的な評価と慎重なフォローアップを行っています。

対象は、進行度や全身状態など一定の条件を満たす直腸がん症例です。地域の先生方のご紹介により、適格性の確認から治療、経過観察まで当科が責任を持って実施し、その都度経過を先生方へご報告いたします。

「ENSEMBLE試験」は、患者さんにとって手術を回避しつつ根治を目指せる手段かもしれない——そんな新しい希望をもたらす挑戦です。地域の患者さんにもこの機会を広く届けるべく、今後も当科では安全で先進的ながん治療を推進してまいります。

お問い合わせ先

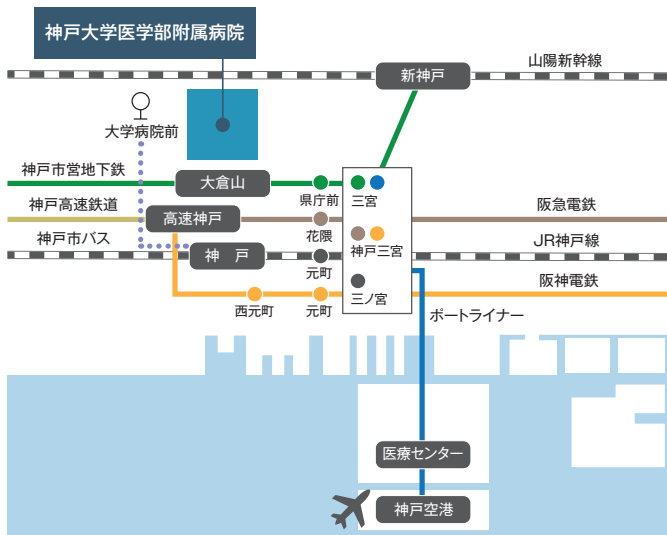
神戸大学医学部附属病院 食道胃腸外科
 特命准教授 **松田 武**

☎078-382-5925

E-mail:tmatsuda@med.kobe-u.ac.jp
 (地域連携室を通じて「食道胃腸外科 初診枠」へご予約ください)

神戸大学医学部附属病院 | 交通アクセス

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2 TEL.078-382-5111 FAX.078-382-5050
<https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/index.html>



電車をご利用の方

- 神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車 徒歩約5分
- JR「神戸」駅下車 徒歩約15分
- 神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車 徒歩約15分

バスをご利用の方

- JR神戸駅前より神戸市バス 110系統もしくは112系統に乗車 約5分「大学病院前」バス停下車

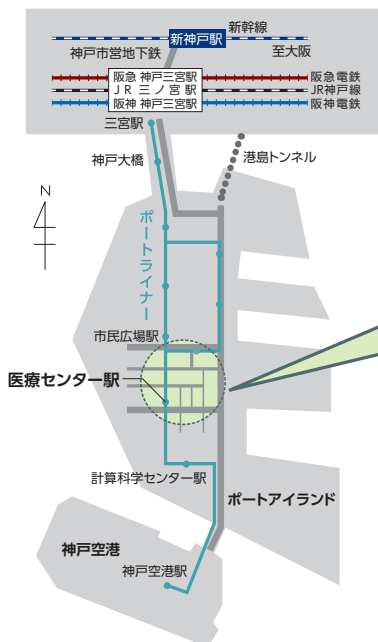
タクシーをご利用の方

- JR神戸駅前より約5分
- JR新神戸駅前より約10分

国際がん医療・研究センター | 交通アクセス

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5-1 TEL.078-302-7015 FAX.078-302-7147
<https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/iccr/>

改札を出て右側のムービングウォークを直進し、
 右手の直結歩道橋より受付(2F)へ



電車をご利用の方

- 三宮駅よりポートライナー「神戸空港行」乗車約12分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m
- 神戸空港駅よりポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m

車をご利用の方

- 阪神高速13号線西行き「生田川」I.C・東行き「京橋」I.Cから神戸大橋を渡りおよそ15分
- ※三宮東の港島トンネルも利用可能
- ※1階駐車場を一般利用者として有料で利用可 最初の60分無料、以降1時間毎100円

神戸空港をご利用の方

- 「神戸空港駅」からポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m

病院の基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 先進医療の開発と推進
4. 地域医療連携の強化
5. 災害救急医療の拠点活動
6. 医療を通じての国際貢献



神戸大学医学部附属病院
 Kobe University Hospital

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
 078-382-5111(代表) 078-382-6243(予約変更専用)
 月～金曜日(休診日除く) 13:00～16:30 のみ(原則、予約変更は受診日の2日前まで)